



# 地域資源の活用により 日本一の島を目指して!!

～有限会社タマレンタ企画の取組～

有限会社タマレンタ企画  
代表取締役社長  
玉城 堅徳

対談者

内閣府沖縄総合事務局  
農林水産部長  
遠藤 順也



左：遠藤部長、右：玉城社長

農山漁村の活性化の優良事例を選定する内閣官房及び農林水産省主催の第3回「ディスプレイ農山漁村(むら)の宝」に選定された「タマレンタ企画」の玉城社長と遠藤農林水産部長が対談を行いました。

### 民泊や小麦栽培を始めたきっかけ

**遠藤部長** はじめに、この度は「ディスプレイ農山漁村(むら)の宝」への選定、大変おめでとうございます。沖縄では、修学旅行生の民泊が増加しており、特に伊江島は民泊の受入が盛んな地域ですが、伊江島で民泊を始めたきっかけを教えてください。

**玉城社長** 昭和59年度からレンタサイクルの事業を展開していますが、平成14年に伊江島を大阪の学校の先生に紹介する機会があり、その学校の修学旅行はクラス別で民宿に泊まる形式でした。伊江島では1クラスで一つの民宿に泊まる形式は難しいので、先生に思い切つて「完全に生徒を分散して民泊をしよう。ホームステイしませんか?」と聞いたところ、意気投合し、受入に向けて本格的に動き出し、平成15年度から37軒の民家で受入を開始しました。

**遠藤部長** 今回、「ディスプレイ農山漁村(むら)の宝」に選定された大きな理由として、6次産業化への取組があると思います。が、小麦の栽培を始めたきっかけを教えてください。

**玉城社長** 伊江島では昔から小麦を栽培しており、それを使った沖縄そばでも作っ



民泊をした生徒の見送り

てみるかと始めたのがきっかけです。原料の確保が重要であり、友人の農家に「空いている畑でいいから小麦を植えてくれないか?」とお願いをし、平成24年度に16戸の農家で始めました。

**遠藤部長** 小麦については、平成24年度から本格的に取り組まれており、短期間で形になる成果が出ていると思いますが、それは農家の皆さんが潜在的に小麦を作りたいかつたということでしょうか。

**玉城社長** それもあるとは思いますが、農家の皆さんとしては「本当に買ってくれるのか?」というのが疑問だったのですが、「作ったものは私が全て買い取り、収穫作業も全て任せさせていただきます。」ということで1年目は始めました。

**遠藤部長** 農家の方が畑の準備や播種をして、その後の管理や収穫作業は玉城さんのところでいい、収穫した小麦は全量買い取るという形でしょうか。

**玉城社長** そうです。1年目の収穫は1



ケックン(チップス)

く2トンでしたが、その後15トンも収穫をすることができ、その原料を元に沖縄そばを製造しました。

また、油で揚げてみたら、カリカリして美味しかったので、ケックン(小麦を揚げたチップス)を商品化することになりました。

**遠藤部長** 今日の昼食は伊江島の小麦を使った沖縄そばをいただきましたが、他の沖縄そばとは異なり全粒粉を使っており、日本そばのような色と食感があつたので特徴が出ていると思いきい美味しかったです。差別化を図るにはいい取組ではないでしょうか。

(注)全粒粉とは、小麦の表皮、胚芽、胚乳を全て粉にしたものです。

**玉城社長** ありがとうございます。コシがあつて粘りがあり、香りもいいとのこと、最近ではだいぶ評価され、少しずつ注文が入ってきています。

**遠藤部長** ケックンですが、私も伊江島に行くとき必ずお土産で購入します。最近では新商品(スパイシー味)も出たということな

ので帰りに購入しようかと思いますが、どのような販売状況でしょうか。

**玉城社長** 今一番の売れ筋はこのケックンです。県外の量販店から問合せがあり、11月から全国展開をしています。

民泊の際の食事に伊江島産の小麦を使った沖繩そばを提供していただけるだけでもいいですし、ケックンなどお土産で買ってもらえたらなおさらいいと思います。

**遠藤部長** やはり民泊で取り組まれたベースがあり、その上に今回の取組があり短期間で成果が出せているということですか。

**玉城社長** そうです。小麦の取組を始めたもう一つの思いですが、修学旅行などの誘致は地域ごとになりたい10年ひと区切りだと言われていましたので、10年目以降は修学旅行の受入も下火になるだろうとの考えもあり、それがなくなると今まで農家の皆さんにお世話になってこれだけ民泊の取組が大きくなったのに、そのままほっとくわけにはいかないので、民泊に代わるものとして小麦を始めました。

**遠藤部長** オリオンビールとのコラボレーションで伊江島の小麦を使った「琉球ホワイト」が販売されていました。私も何度か飲みましたが、小麦ビール独特の甘みがあり美味しかったです。どのようなきつけかけでオリオンビールと連携ができたのですか。

**玉城社長** たまたま世界的にクラフトビールの人気が高まってきて、オリオンビールから伊江島の小麦を使ってやりましょうとオファーがあり連携することができました。

## 伊江島の魅力

**遠藤部長** 玉城さんは本島でも民泊やレンタル事業を取り組んでいます。そういった観点から伊江島の魅力を教えてください。

**玉城社長** やはり伊江島は自分の「ふるさと」ということが一番の基本です。その中で本島からの距離的な面も含めて、外から見ると伊江島の外観や、民泊の際に接する島の人々の人情などが魅力的だと思います。

## ディスカバー農村漁村(むら)の宝の選定を受けた反響

**遠藤部長** 今回、ディスカバー農村漁村(むら)の宝の選定を受けましたが、選定を受けた後、周辺からはどのような反響がありましたか。



「ディスカバー農村漁村の宝」選定証授与式

りましたか。

**玉城社長** 反響というよりもただ驚きで、ただビックリしているところ。周辺の方々からは、「今までの実績が認められたんだよ。」と言われていますが、島全体喜んでくれていると思います。

## 今後の課題について

**遠藤部長** 今後の課題ですが、民泊についてはどのように考えていますか。

**玉城社長** 民泊を始めて10年以上も経過したので、今後はブランド化する必要があること、もう少しスキルアップして質の高いものに取り組んでいこうと思っております。修学旅行で訪れた皆さんは卒業した後も結構リピーターとして伊江島に足を運んでいただいているので、「一生の第二のふるさと」になるような地域づくりをしていきたいと考えています。

**遠藤部長** 小麦については、ケックンなど引き合いもあるので、小麦自体の生産量を増やすことが重要であると思いますが、生産体制を整えることが課題でしょうか。

**玉城社長** そのとおりです。農作物は天候に左右されたり、ちよつと怠けるだけでも全然量が取れなくなったりと、日頃から一生懸命に取り組まないといと生産量が上がらないというのが現実ですが、農家の皆さんと一緒に6次産業化に向けた取組をやりたいと思います。

現在16戸の農家の皆さんと取り組んでおり、今は小麦の代金しか出せませんが、今後、加工品の売り上げが伸びた際には皆さんに還元できるようにしたいです。年に一回は皆で先進地視察を行っており、去年は長崎に行き6次産業化に取り組んで

ところを見学しました。

**遠藤部長** 今後、今の16戸の農家を増やす予定はありますか。

**玉城社長** 今後は増やさないといけないと思っています。ただこの16戸の農家は最初から協力していたので、株主という感じで取り組んで行ければと思っています。

**遠藤部長** いわゆるオーナーという共同出資者というイメージでしょうか。

**玉城社長** そうです。そういう形で取り組んでいこうと思っています。

**遠藤部長** 現在は、ケックンや沖繩そばなどの商品がありますが、今後6次産業化の商品として増やしていこうと思つている商品などありますか。

**玉城社長** 今取り組んでいるのはお味噌です。「食べる味噌」というのを作つてみたいですね。味噌だけでも食べられるので、いろいろな商品展開ができると思います。今後、工場が整備されれば十分にやっていけるとは思いますが、まだそこまでは至らないので今後の課題です。

**遠藤部長** やはりストーリーが大事で、民泊から小麦の生産、6次産業化の取組のように地域に定着していけば今後継続していくと思います。

今後、玉城さんらの取組が更に発展していけばと期待しています。本日は、貴重なお話をありがとうございました。



能登沖繩総合事務局長への選定報告